

## 寺社を巡る会

# 活動記録書

|   |                     |
|---|---------------------|
| 開催日：<br>平成30年5月11日（金） 晴れ  | 開催テーマ：<br>玉縄北条氏の夢の跡 |
| 開催場所：<br>大船・玉縄  | 記入者：<br>横山 美智男      |
| 参加人数：寺社を巡る会会員 男 23名 女 7名 計 30名<br>ビジター 男 0名 女 0名 計 0名<br>合計 30名   |                     |
| <p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）：</p> <p>コース：大船駅西口階段下⇒龍寶寺（歴史民俗資料館）⇒諏訪神社（昼食）⇒玉縄城址（諏訪壇特別見学）⇒七曲り⇒ふあん坂⇒久成寺（解散）</p> <p>集合は、先月と同じ大船駅西口階段下。大船軒のレストラン・工場横を通り、最初は玉縄首塚へ。大永六年(1526)安房・里見氏の玉縄城攻めに際して、戦後に城主氏時が敵味方の首を交換してここに葬ったと伝えられている。塚を築き榎(現在はタブノキ)を植え戦死者の霊を弔った。今も8月には供養のため灯籠流しが行われる。</p> <p>次は玉泉寺の欲張り地蔵を遠望しながら龍寶寺に向かう。先月と比べるとエンジュの並木の新緑が美しい。龍寶寺は玉縄北条氏の菩提寺として栄えたが、小田原北条氏の滅亡とともに衰退した。秀吉の小田原攻めの際、時の住職良達他が氏勝を説得し無血開城させた。まずは本堂に参拝。本堂横には北条三代の墓と言われる石塔がある。元は裏山に有ったが平成24年に移転された。境内の歴史民俗資料館には玉縄城址のジオラマがあり、天然の要塞であったことが窺われた。</p> <p>次は諏訪神社。玉縄三代城主綱成が、信州諏訪神社の神霊を勧請し城内諏訪壇に祀ったのが始まり。廃城になった後、村人により現在地に移され御霊社と合祀された。鳥居の扁額がその歴史を語る。</p> <p>諏訪神社境内で昼食を済ました後、現在は清泉女学院の構内にある玉縄城址へ。守衛さんに鍵を開けてもらい急な階段を上がり山中へ入る。北条早雲が永正九年(1512)に築いた難攻不落と言われた山城である。自然の丘陵に空堀、土塁、曲輪など様々な設備を設けていた。諏訪壇は城の最高部にあり周囲との高低差が激しい。ここに諏訪神社が祀られていたとされる。山道を歩くと断崖箇所が多く見受けられる。城の周りはいくつかの砦に囲まれ、その外側には柏尾川、境川が玉縄城を大きく取り囲み自然の要害を形成していたといわれる。北条氏滅亡後の元和元年に廃城となった。</p> <p>清泉女学院を出て来た道を戻り七曲りに入る。名前の通り屈曲が多い坂道で大手門に達している。坂上の一角には敵の襲撃を知らせる合図の太鼓を打つため太鼓櫓が設けられていた。</p> <p>ふあん坂を抜けて最後は久成寺へ。小田原北条氏の家臣梅田秀長が自邸を寄進し創設した。小田原攻めの際に徳川家康が、天下泰平を祈願する住職に感銘し寺領三石を寄進した。その後も徳川幕府との関係が深く、本堂には葵のご紋が見られる。本堂手前左には長尾一族の墓と言われる石塔群などがある。山門は大阪の豪商鴻池家が龍口寺に寄進したものを移築したものである。</p> |                     |
| <p>参加者の状況・意見など：</p> <p>本日は高低差があり距離の割には厳しめのコースであった。天候に恵まれ今月も無事巡拝を終了したことに感謝したい。</p>   |                     |
| <p>次回の予定：</p> <p>6月7日（木） 10：00 北鎌倉駅西口 東国花の寺巡り（東慶寺、浄智寺など）</p>  |                     |